# 令和４年度　事業評価書

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 会計区分 | 01 | 一般会計 | | | | | 事業主体 | 04600000 | 市民協働部 文化振興課 | |
| 大事業 | 61 | ６つのまちづくり宣言 | ― | 款項目 | 09 | 教育費 | 05 | 社会教育費 | 07 | 文化の森費 |
| | | 目指す姿 | 政策体系に基づかないその他の事業 | ＫＰＩ | ― | | | | 目標値 | ― |
| 中事業 | 32 | 主要な取り組み | ― | | | | | | | |
| 小事業 | 04 | 文化の森事務 | | 目標年度 | 令和6年度 | | | | | |

## インプット

| | |
|---|---|
| 事業実施の背景にある課題 | 少子高齢化やインターネットの普及、価値観の多様化等により、文化・芸術に触れたり、学んだりする機会が少なくなっている。 |
| 事　業　目　的 | （1）対象（誰、何を対象にしていますか）<br>市内外を問わずどなたでも<br>（2）目的<br>文化の森の施設を活用したり、企画展などを鑑賞したり、仕事や読書・遊びなどで幅広い年齢層の方に利用してもらうことで、生涯を通して文化・芸術に親しむ人たちを育てる。 |
| 事　業　概　要 | ・みのかも文化の森における博物館や美術館及び学習施設としての管理・運営に伴う一般事務を行う。<br>・より効果的な博物館の運営や文化振興事業を推進するため、施設の利用者や文化団体等の代表者で組織する文化の森運営協議会を開催したり、美濃加茂市民ミュージアム専門委員に専門的な指導や助言を受ける。 |

| 事　業　費　（千円） | | R02 | R03 | R04 | R05 | R06 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 予算額 | 5,026 | 5,509 | 5,770 | 4,468 | |
| | 決算額 | 4,174 | 4,720 | 5,101 | | |
| 年間の事業に要する時間（正職員/正職員以外） | | 2,300 / 790 | | | | |

## アウトプット

| 活　動　指　標　（単位） | | R02 | R03 | R04 | R05 | R06 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 広報媒体紹介件数　230件以上 | 目標値 | 230 | 230 | 230 | 230 | 230 |
| | 実績値 | 202 | 150 | 151 | | |

## アウトカム

| Ｋ　Ｐ　Ｉ　（単位） | | R02 | R03 | R04 | R05 | R06 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 入館者数　80,000人以上 | 目標値 | 80000 | 80000 | 80000 | 90000 | 90000 |
| | 実績値 | 33380 | 53310 | 58471 | | |

## 実績

| | |
|---|---|
| 実　績 | ・ミュージアムニュースの発行(年４回)<br>・ホームページ、森の日記の公開<br>・インスタグラム、すぐメールでの情報発信<br>・新聞、雑誌、ラジオ等で事業のＰＲを実施 |
| 効　果 | 市内外の人に文化の森で企画展を鑑賞したり、講座を受講したり、また学習の場として利用してもらうことにより、文化・芸術に触れ、親しむ機会となった。 |

## 評価分析

| | |
|---|---|
| 活動指標分析<br>※目標値の達成・未達成要因 | 新型コロナウイルス感染症の影響で、イベントや講座を人数制限して行ったり、開催されなかったものもあった関係で、ラジオやフリー情報誌を含めた広報媒体等に対して紹介したが広報媒体等に取り上げられた件数が目標を下回った。 |
| ＫＰＩ分析<br>※目標値の達成・未達成要因 | 年間入館者は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で目標値には達しなかったが、「岐阜県医療ひっ迫防止対策強化宣言」の終了により、回復してきている。 |
| 実績からR05年度の事業の方向性 | 当館で開催されるイベントや講座の催事情報を、これまでどおり積極的に情報誌や新聞、ラジオ等のメディアに情報発信することにより一人でも多くの方に、みのかも文化の森に足を運んでいただき、文化・芸術に触れていただく。 |

# 令和４年度　事業評価書

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 会計区分 | 01 | 一般会計 | | | | 事業主体 | 04600000 | 市民協働部 文化振興課 | |
| 大事業 | 61 | ６つのまちづくり宣言 | ― | 款項目 | 09 | 教育費 | 05 | 社会教育費 | 07 文化の森費 |
| | | 目指す姿 | 政策体系に基づかないその他の事業 | ＫＰＩ | ― | | | 目標値 | ― |
| 中事業 | 32 | 主要な取り組み | ― | | | | | | |
| 小事業 | 14 | 資料調査整理事業 | | 目標年度 | 令和6年度 | | | | |

## インプット

| | |
|---|---|
| 事業実施の背景にある課題 | 地域から集まる歴史、自然、考古、美術、民俗資料について、その文化的価値を調査、研究し、適切に保存しながら後世に引き継いでいくことが地域博物館の役割である。そして、その研究成果、魅力を展覧会やホームページなどで公開、また刊行物として発行することで、市民に美濃加茂市の魅力を伝え、文化的関心を深め、地域への誇りと愛着を育むこと、また、地域内だけでなく、全国、全世界へ発信することで、美濃加茂市の知名度を上げていくことが必要。 |
| 事業目的 | （1）対象<br>美濃加茂市民ミュージアムの資料等（考古、歴史、民俗、自然史、美術、人物、書籍等）<br>（2）目的<br>美濃加茂市の文化的価値や魅力を持つ資料を展示やホームページなどで普及、発信することにより、青少年の教育や市民の関心・活用に役立てる。<br>市民の文化的関心を深めるとともに、全国の研究機関等で利用されることによって、美濃加茂市の知名度や評価が高まる。 |
| 事業概要 | ・地域関連の資料を収集。<br>・文化財、美術資料、地域の歴史・文化資料等の調査、記録。<br>・収蔵資料の修復、燻蒸、写真デジタル化、レプリカ作成等による保存。<br>・研究の成果をまとめた研究紀要、地域の歴史・文化を紹介する冊子等の刊行。<br>・収集資料をデジタルアーカイブ化し、ＨＰ等で発信したり、展示したりする。 |

| 事業費（千円） | | R02 | R03 | R04 | R05 | R06 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 予算額 | 3,183 | 3,321 | 3,377 | 5,380 | |
| | 決算額 | 2,776 | 2,973 | 2,987 | | |
| 年間の事業に要する時間（正職員/正職員以外） | | 1,010 / 3,360 | | | | |

## アウトプット

| 活動指標（単位） | | R02 | R03 | R04 | R05 | R06 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 美濃加茂事典入力数の合計 | 目標値 | 790 | 870 | 900 | 950 | 1000 |
| | 実績値 | 793 | 848 | 921 | | |

## アウトカム

| ＫＰＩ（単位） | | R02 | R03 | R04 | R05 | R06 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 資料閲覧貸出等の点数200点以上 | 目標値 | 200 | 200 | 200 | 200 | 200 |
| | 実績値 | 370 | 222 | 216 | | |

## 実績

| | |
|---|---|
| 実績 | ・資料閲覧貸出点数216点<br>・美濃加茂辞典ＨＰ掲載入力73件累計921件<br>・刊行物紀要第22集A4 101ｐ |
| 効果 | 市内だけでなく、他地域、海外からも資料や地域ゆかりの作家に関する問い合わせや、資料の寄贈、また縁のある作家からの作品の寄贈などがあり、地域博物館としての役割が認識されている。こうして集まった資料や作品を整理、研究し、その成果を企画展や収蔵品展で展示公開することで、観覧者から、作品や地域への理解が深まった、誇りや愛着が持てたなどの声が届いた。ホームページ上で収蔵資料の情報公開をすることで、資料の借用等、収蔵資料の活用にもつながっている。 |

## 評価分析

| | |
|---|---|
| 活動指標分析<br>※目標値の達成・未達成要因 | 「美濃加茂辞典」は、美濃加茂地域を中心とすることがらを総合横断的に照会・検索ができるよう、五十音順に紹介することで「手引き」「インデックス」「百科」としての役割をめざすものである。収集調査され明らかになった新しい情報を都度に更新し、蓄積、充実を図ることができた。 |
| ＫＰＩ分析<br>※目標値の達成・未達成要因 | ホームページを活用した情報公開することで、他の博物館、関係機関からの資料借用調査、また、市民からの問い合わせなどがあり、多方面で資料の活用を図ることができた。 |
| 実績からR05年度の事業の方向性 | 資料の収集、調査、保存は、引き続き継続していく。令和5年度は、市政70周年にむけた行政のあゆみの取りまとめを進めていく。 |

# 令和４年度　事業評価書

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 会計区分 | 01 | 一般会計 | | | | 事業主体 | 04600000 | 市民協働部 文化振興課 | |
| 大事業 | 61 | ６つのまちづくり宣言 | ― | 款項目 | 09 | 教育費 | 05 | 社会教育費 | 07 文化の森費 |
| | | 目指す姿 | 政策体系に基づかないその他の事業 | ＫＰＩ | ― | | | 目標値 | ― |
| 中事業 | 32 | 主要な取り組み | ― | | | | | | |
| 小事業 | 15 | 埋蔵文化財調査・整理事業 | | 目標年度 | 令和6年度 | | | | |

## インプット

| | |
|---|---|
| 事業実施の背景にある課題 | 市内にある埋蔵文化財を把握し、遺跡の分布調査、出土品の整理、保存、復元を行うことで、地域の考古的文化財の調査、研究、保存に努め、後世に引き継ぐことが求められる。また、開発業者、公共事業担当部署との連絡、協議を円滑に行うことで、開発や工事等で埋蔵文化財が調査されずに滅失することを防ぐ必要がある。 |
| 事業目的 | （1）対象<br>埋蔵文化財（遺跡、出土品、記録等）<br><br>（2）目的<br>市内にある埋蔵文化財を把握し、分布調査、開発や工事等の協議、調整。出土品の整理、保存、復元を継続的に行う。その結果をデジタルデータ化をすることで開発や工事等に係る文化財保護を円滑に進める。<br>調査結果とともに一般公開したり、小中学校の学習に活用することで、市民が文化的関心を深め、地域に誇りを持つことができることをめざす。 |
| 事業概要 | ・文化財保護法に基づく埋蔵文化財保護行政の展開<br>・発掘された出土品の調査・整理・研究並びに遺物の修復復元作業。<br>・遺物の保存・管理・台帳整理、並びに、デジタルアーカイブ化。 |

| 事業費（千円） | | R02 | R03 | R04 | R05 | R06 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 予算額 | 1,932 | 1,784 | 1,934 | 1,838 | |
| | 決算額 | 1,750 | 1,528 | 1,303 | | |
| 年間の事業に要する時間（正職員/正職員以外） | | 770 / 0 | | | | |

## アウトプット

| 活動指標（単位） | | R02 | R03 | R04 | R05 | R06 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 埋蔵文化財包蔵地の分布調査件数 | 目標値 | 250 | 250 | 250 | 250 | 250 |
| | 実績値 | 385 | 217 | 477 | | |

## アウトカム

| ＫＰＩ（単位） | | R02 | R03 | R04 | R05 | R06 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 台帳及びデジタルデータ登録数700件以上 | 目標値 | 350 | 1000 | 700 | 700 | 700 |
| | 実績値 | 1976 | 657 | 857 | | |

## 実績

| | |
|---|---|
| 実績 | ・遺物整理、製図台帳、データ作成　857件<br>・埋蔵文化財包蔵地発掘調査、協議　477件<br>・太田小6年生（2日）、加茂野小6年生（2日）、下米田小6年生（1日）、三和小6年生（1日）、双葉中1年生（2日）　社会科「縄文のむらから古墳のくにへ」、「総合学習」の学習において、常設展示室や館蔵の市内で発掘された考古資料を活用した。 |
| 効果 | 開発業者、公共事業担当者と円滑な協議を行い、埋蔵文化財包蔵地の分布状況の蓄積を行い、データの精度を高める効果が得られた。牧野小山遺跡の発掘調査について、公共事業担当部署と発掘委託業者が連携し、小学生を対象にした発掘現場見学などを開催するなど、子どもたちの地域理解を深め、学習意欲を高めることができた。 |

## 評価分析

| | |
|---|---|
| 活動指標分析<br>※目標値の達成・未達成要因 | 開発業者、公共事業担当部署との円滑な連絡、協議により、想定（目標）より多くの分布把握を進めることができた。 |
| ＫＰＩ分析<br>※目標値の達成・未達成要因 | 台帳、データ作成は、目標を上回る進捗で進めることができた。このことは、得られた文化財の状態が良好なものが多かったことで作業コスト（処理手順等）が下がったためといえる。<br>「台帳及びデジタルデータ登録」とは、市内および地域から収集される遺物を洗浄、注記、接合、整理、ラベル作成し、台帳の作成、デジタルデータ化するものである。令和3年度は、まとまった数の寄贈コレクションの台帳化が業務として予測されたため、成果数を増加して見込んだ。令和3年度実績として、尾崎遺跡のまとまった出土品の整理が終了したため、令和4年度以降は、その減を見込んだ数値とした。今後は、提示した成果数の見込み。 |
| 実績からR05年度の事業の方向性 | 引き続き分布把握ため、関係者との連絡、協議を進めていく。 |

# 令和４年度　事業評価書

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 会計区分 | 01 | 一般会計 | | | | 事業主体 | 04600000 | 市民協働部 文化振興課 | |
| 大事業 | 61 | ６つのまちづくり宣言 | ― | 款項目 | 09 | 教育費 | 05 | 社会教育費 | 07 文化の森費 |
| | | 目指す姿 | 政策体系に基づかないその他の事業 | ＫＰＩ | ― | | | 目標値 | ― |
| 中事業 | 32 | 主要な取り組み | ― | | | | | | |
| 小事業 | 16 | 文化財保護管理事業 | | 目標年度 | 令和6年度 | | | | |

## インプット

| | |
|---|---|
| 事業実施の背景にある課題 | 近年、価値観の多様化等により文化財への理解が希薄になり、また少子高齢化による地域の担い手不足の影響などにより、貴重な文化財、地域に根付いた文化資源の滅失・散逸などが課題となっている。 |
| 事　業　目　的 | （１）対象（誰、何を対象にしていますか）<br>市内にある文化財<br>（２）目的<br>文化財の保護・保存・修復、公開（一般、ホームページ）、教育普及などの活用を通して、文化財に対する理解、継承する機運を育み、自分たちの住む地域にある文化財や文化資源を知ることで、地域に愛着を持ち、市民の誇りとなるまちづくりをすすめる。 |
| 事　業　概　要 | ・重要文化財の旧太田脇本陣林家住宅防災設備保守、保存修理。<br>・重要文化財の旧太田脇本陣林家住宅隠居家の公開。<br>・津田左右吉博士記念館の保守、活用。<br>・美濃加茂市文化財保存活用地域計画作成業務。<br>・その他文化財や民俗芸能等の保護・保存。 |

| 事　業　費　（千円） | | R02 | R03 | R04 | R05 | R06 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 予算額 | 7,744 | 10,196 | 16,166 | 12,452 | |
| | 決算額 | 6,698 | 8,745 | 14,146 | | |
| 年間の事業に要する時間（正職員/正職員以外） | | 1,070 / 180 | | | | |

## アウトプット

| 活　動　指　標　（単位） | | R02 | R03 | R04 | R05 | R06 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 文化財管理、保存、修理補助事業達成件数 | 目標値 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| | 実績値 | 6 | 5 | 5 | | |

## アウトカム

| Ｋ　Ｐ　Ｉ　（単位） | | R02 | R03 | R04 | R05 | R06 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 隠居家入場者数7,000人以上 | 目標値 | 5500 | 7000 | 7000 | 7000 | 7000 |
| | 実績値 | 4073 | 5075 | 4984 | | |

## 実績

| | |
|---|---|
| 実　績 | ・旧太田脇本陣林家住宅隠居家の公開　5,000人<br>・津田左右吉博士記念館利用者数　300人<br>・文化財保護費補助金　旧太田宿脇本陣林家住宅（修理<br>・管理）　1,945千円<br>・民俗芸能保存事業補助金　２団体　105千円 |
| 効　果 | 文化財保存活用地域計画作成に着手したことにより、計画的に文化財の保存・活用を推進していく第一歩となった。<br>旧太田脇本陣林家住宅の保存修理補助事業が終了し、令和５年度から一般公開（活用）が可能となった。 |

## 評価分析

| | |
|---|---|
| 活動指標分析<br>※目標値の達成・未達成要因 | 旧太田脇本陣林家住宅の保存修理補助事業など、計画どおりに文化財の管理、保存、修理事業を行えた。 |
| ＫＰＩ分析<br>※目標値の達成・未達成要因 | 年間入場者数は新型コロナウイルス感染症の影響で目標値には達しなかった。 |
| 実績からR05年度の事業の方向性 | 引き続き文化財保存活用地域計画作成に取り組む（２年目）。<br>旧太田脇本陣林家住宅の保存修理補助事業が終了し、令和５年度から一般公開を予定しているため、それに合わせて隣接する隠居家をＰＲし、入場者の増員を行う。 |

# 令和４年度　事業評価書

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 会計区分 | 01 | 一般会計 | | | | | 事業主体 | 04600000 | 市民協働部 文化振興課 | |
| 大事業 | 61 | ６つのまちづくり宣言 | ― | 款項目 | 09 | 教育費 | 05 | 社会教育費 | 07 | 文化の森費 |
| | | 目指す姿 | 政策体系に基づかないその他の事業 | ＫＰＩ | ― | | | | 目標値 | ― |
| 中事業 | 32 | 主要な取り組み | ― | | | | | | | |
| 小事業 | 17 | 積み重ねていく大学との連携事業 | | 目標年度 | 令和6年度 | | | | | |

## インプット

| | |
|---|---|
| 事業実施の背景にある課題 | 文化の森に収集されている資料の整理、台帳化等について、その分野は多岐に渡るため、全てを館の学芸員のみで行うことはできない。そこで、大学の専門性を活用するなど、地域の大学と連携して進めることが必要となる。 |
| 事業目的 | （1）対象<br>美濃加茂市民ミュージアムに収集されている資料<br><br>（2）目的<br>文化の森に収集されている資料を各大学の知と経験を活用して体系的に整理、台帳化し蓄積を行い、その成果が一般市民の疑問解決や他機関による研究に利用されたり、講演会や講座などを開催したり、里山整備、地域づくりを進める基礎資料とされるなど、地域における学術活動に活かされることを目指す。 |
| 事業概要 | ・大学と連携した古文書や自然分野関連資料の整理、蓄積、研究成果の発信<br>・レプリカや標本作成。<br>・自然史系等の講座の開催。 |

| 事業費（千円） | | R02 | R03 | R04 | R05 | R06 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 予算額 | 1,104 | 1,207 | 1,173 | 1,094 | |
| | 決算額 | 827 | 708 | 891 | | |
| 年間の事業に要する時間（正職員/正職員以外） | | 120 / 180 | | | | |

## アウトプット

| 活動指標（単位） | | R02 | R03 | R04 | R05 | R06 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 資料整理件数 | 目標値 | 2000 | 2000 | 1000 | 1000 | 1000 |
| | 実績値 | 1090 | 923 | 2066 | | |

## アウトカム

| ＫＰＩ（単位） | | R02 | R03 | R04 | R05 | R06 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 大学連携で調査、整理した資料のデータベース化数 | 目標値 | 10 | 100 | 100 | 100 | 100 |
| | 実績値 | 140 | 162 | 108 | | |

## 実績

| | |
|---|---|
| 実績 | ・岐阜大学（標本整理）　1,633点整理<br>・愛知大学（古文書整理）　433点整理 |
| 効果 | 自然史系資料は岐阜大学、古文書など歴史系資料は愛知大学の教員や学生と連携して整理等事業を進めることができた。蓄積したデータは、随時ホームページのデータベースに登録し、誰でもその成果を閲覧することができる。ホームページを見ての問い合わせもいただいており、資料活用の効果があった。 |

## 評価分析

| | |
|---|---|
| 活動指標分析<br>※目標値の達成・未達成要因 | コロナ禍ではあったが、大学の態勢も通常に近い状態になりつつあり、自然史系及び歴史系資料調査、整理数の目標値を達成することができた。 |
| ＫＰＩ分析<br>※目標値の達成・未達成要因 | データベース化した情報をＨＰで誰でも閲覧することができる状態にすることで、調査、整理した資料を「公開」という形で活用することができた。 |
| 実績からR05年度の事業の方向性 | 引き続き、整理等事業を継続し、データベースの蓄積を図っていく。 |

# 令和４年度　事業評価書

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 会計区分 | 01 | 一般会計 | | | | | 事業主体 | 04600000 | 市民協働部 文化振興課 | |
| 大事業 | 61 | ６つのまちづくり宣言 | ― | 款項目 | 09 | 教育費 | 05 | 社会教育費 | 07 | 文化の森費 |
| | | 目指す姿 | 政策体系に基づかないその他の事業 | ＫＰＩ | ― | | | | 目標値 | ― |
| 中事業 | 32 | 主要な取り組み | ― | | | | | | | |
| 小事業 | 18 | 人物顕彰事業 | | 目標年度 | 令和6年度 | | | | | |

## インプット

| | |
|---|---|
| 事業実施の背景にある課題 | 坪内逍遙、津田左右吉をはじめとした偉人、地域と関わる重要な人物の功績を顕彰し、後世に引き継いでいくことで、地域の魅力を高めることが必要である。 |
| 事　業　目　的 | （1）対象<br>市民<br><br>（2）目的<br>人物顕彰に関わる質の高い文化事業（逍遙大賞、学生野外劇、講演会、ワークショップ等）などを実施することで、郷土の魅力を高め、文化芸術を身近なものとし、市民文化の向上を図る。地域の偉人について知ることで、自分たちの住むまちに愛着と誇りを持つことができる。 |
| 事　業　概　要 | ・人物顕彰事業<br>・坪内逍遙大賞事業<br>・早稲田大学と連携した文化交流事業<br>・早稲田大学と連携した学生野外劇 |

| 事　業　費　（千円） | | R02 | R03 | R04 | R05 | R06 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 予算額 | 8,321 | 5,063 | 7,755 | 6,687 | |
| | 決算額 | 3,633 | 1,590 | 6,746 | | |
| 年間の事業に要する時間（正職員/正職員以外） | | 1,560 / 540 | | | | |

## アウトプット

| 活　動　指　標　（単位） | | R02 | R03 | R04 | R05 | R06 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 人物顕彰関連事業の参加者数 | 目標値 | 1600 | 1200 | 1600 | 1200 | 1600 |
| | 実績値 | 466 | 900 | 1180 | | |

## アウトカム

| Ｋ　Ｐ　Ｉ　（単位） | | R02 | R03 | R04 | R05 | R06 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 人物顕彰関連事業の参加者の満足度を80%以上 | 目標値 | 80 | 80 | 80 | 80 | 80 |
| | 実績値 | 0 | 0 | 87 | | |

## 実績

| | |
|---|---|
| 実　績 | ・第19回坪内逍遙大賞授賞式・記念事業　300人<br>・早稲田大学野外劇ワークショップ　10人<br>・その他の人物顕彰事業（津田作文集出品者、顕彰会活動等）870人 |
| 効　果 | 第19回坪内逍遙大賞授賞式、記念事業において、市民から逍遙について理解を深めたとともに、逍遙が愛した演劇にも関心を持つことができた声を多数いただいた。また、早稲田大学との連携事業において、企画展や演劇ワークショップを開催し、企画展では地域に関わる歴史資料を活用しながら、自分たちの住むまちへの理解を深めていただくことができた。 |

## 評価分析

| | |
|---|---|
| 活動指標分析<br>※目標値の達成・未達成要因 | 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事業、顕彰会活動などの一部が人数制限や中止となったものもあったため、目標値は達成しなかったものの、そうした中でも多くの人に参加いただくことができた。 |
| ＫＰＩ分析<br>※目標値の達成・未達成要因 | 逍遙大賞、演劇ワークショップ、企画展などにおいて、高い満足度を感じていただくことができた。<br>Ｒ4年度のＫＰＩ分析のための事業は、演劇ワークショップと逍遙大賞記念事業である。演劇ワークショップは、早稲田大学との連携事業で、大学の演劇サークルが質の高いワークショップを展開した。逍遙大賞記念事業は、第19回受賞者松岡和子さんの翻訳と逍遙訳の朗読聴き比べの新しい試みであり、受賞者ご本人は若手俳優と入念な準備と練習を重ねて実施してくださったもので、大変充実した内容であった。開催日当日も多くの満足した声を来場者から直接伺った。 |
| 実績からR05年度の事業の方向性 | 今後も、逍遙大賞授賞ごとに受賞者の記念事業を実施する予定。 |

# 令和４年度　事業評価書

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 会計区分 | 01 | 一般会計 | | | | 事業主体 | 04600000 | 市民協働部 文化振興課 | |
| 大事業 | 61 | ６つのまちづくり宣言 | ― | 款項目 | 09 | 教育費 | 05 | 社会教育費 | 07 文化の森費 |
| | | 目指す姿 | 政策体系に基づかないその他の事業 | ＫＰＩ | ― | | | 目標値 | ― |
| 中事業 | 32 | 主要な取り組み | ― | | | | | | |
| 小事業 | 19 | 展示事業 | | 目標年度 | 令和6年度 | | | | |

## インプット

| | |
|---|---|
| 事業実施の背景にある課題 | 博物館は、資料収集・保存、調査、展示を一体的に行う施設である。地域から集まった様々な資料を調査、研究して蓄積した成果を展覧会などで紹介し、資料の文化的価値や魅力を伝えていくなど、社会教育施設として学びの場を提供する役割を持つ。地域に関する資料は、そのままでは散逸したり、滅失されてしまう恐れがある。その文化的価値を調査、研究し、展示へと結びつけることで、その文化価値を市民に知ってもらい、地域の宝を次世代へと継承していくことが必要となる。 |
| 事業目的 | （1）対象<br>市民<br><br>（2）目的<br>様々な企画展、常設展示室等の展示を通して、美濃加茂市の文化的価値や魅力を発信し、市民が芸術文化に触れる機会や場を提供することで、市民文化の向上と新たな探求心が育まれることをめざす。 |
| 事業概要 | ・資料収集・調査研究により蓄積された情報を展覧する事業<br>・常設展示室と連携し、情報学習室を防災教育への活用をめざした地域・防災情報室として改善する。 |

| 事業費（千円） | | R02 | R03 | R04 | R05 | R06 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 予算額 | 6,973 | 8,641 | 8,142 | 7,901 | |
| | 決算額 | 5,710 | 6,558 | 6,283 | | |
| 年間の事業に要する時間（正職員/正職員以外） | | 1,210 / 2,820 | | | | |

## アウトプット

| 活動指標（単位） | | R02 | R03 | R04 | R05 | R06 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 年間企画展入場者数6,000人以上 | 目標値 | 6000 | 6000 | 6000 | 6000 | 6000 |
| | 実績値 | 4308 | 11905 | 7521 | | |

## アウトカム

| ＫＰＩ（単位） | | R02 | R03 | R04 | R05 | R06 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 展覧会の満足度を80%以上 | 目標値 | 80 | 80 | 80 | 80 | 80 |
| | 実績値 | 84.42 | 84.6 | 83.6 | | |

## 実績

| | |
|---|---|
| 実績 | ・「林魁一」展　1,164人<br>・「ハコ」展　2,402人<br>・「舩坂芳助」展　1,050人<br>・「墨痕に咲う」展　1,799人<br>・「日下部一司」展　1,106人 |
| 効果 | 人物、民俗、美術、歴史など多様な分野の企画展を開催した。「ハコ」展では、地域の人々からも思い出のあるハコを募集、展示することで、展示活動を市民とともに開催することができた。「墨痕に咲う」展は、早稲田大学と連携して開催、地域にゆかりのある白隠、仙厓の禅画をテーマで地域とも協働しながらゆかりの地見学などを開催することできた。 |

## 評価分析

| | |
|---|---|
| 活動指標分析<br>※目標値の達成・未達成要因 | チラシ配布、ポスター掲示、ＨＰ掲載、メール配信、市報掲載に加え、展示に協力いただいた関係者、団体などからも周知をしていただいた。文化の森インスタグラムによる配信、新聞掲載などで来場者の増加もあった。 |
| ＫＰＩ分析<br>※目標値の達成・未達成要因 | 「ハコ」展では、様々な視点で箱をテーマに展開し、市民も参画することができ、満足度が高かった。その他、人物をテーマにした「林魁一」展は、国重要文化財である脇本陣林家当主であった魁一に関わるこれまで公開したことがなかった貴重な資料を展示、また、版画作家の「舩坂芳助」展では、作家自身初となるドローイング・コラージュの展示という新しい切り口で作品を紹介したり、「日下部一司」展においても、美濃加茂市の風景を作品に取り入れるなど、地域に関わる展示により高い満足度が得られた。「墨痕に咲う」展も、早稲田大学の貴重な資料を展示し、来場者の好評を得た。 |
| 実績からR05年度の事業の方向性 | 同様の回数で企画展を開催する。地域の偉人である津田左右吉の生誕150年にあたるため、津田をテーマにした企画展を2つ開催予定。 |

# 令和４年度　事業評価書

| | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 会計区分 | 01 | 一般会計 | | | | | 事業主体 | 04600000 | 市民協働部 文化振興課 | |
| 大事業 | 61 | ６つのまちづくり宣言 | ― | 款項目 | 09 | 教育費 | 05 | 社会教育費 | 07 | 文化の森費 |
| | | 目指す姿 | 政策体系に基づかないその他の事業 | ＫＰＩ | ― | | | | 目標値 | ― |
| 中事業 | 32 | 主要な取り組み | ― | | | | | | | |
| 小事業 | 21 | 市美術展事業 | | 目標年度 | 令和6年度 | | | | | |

## インプット

| | |
|---|---|
| 事業実施の背景にある課題 | 市民文化向上の一つとして、日ごろの文化活動の成果を発表する機会を提供することが求められている。<br>現代は、インターネットのＳＮＳ発達により、市民にとって、実物の作品を発表し、実物を観て、交流する機会は、減りつつある。日ごろの文化活動を発表する機会を提供することで、人とモノ、人と人の交流の場を創設することが大切となる。 |
| 事　業　目　的 | （1）対象<br>一般市民（応募対象者は、高校生以上）<br><br>（2）目的<br>美術展を通して、日ごろの文化活動の成果を発表する機会を設けることにより、その発表の場を目標として市民が自己研鑽につとめ、文化活動を身近に感じ、市民文化の向上と新たな探求心が育まれることを目指す。 |
| 事　業　概　要 | ・公募展の美濃加茂市美術展の開催<br>・募集内容：日本画、洋画、彫刻・彫塑・工芸、書、写真の５部門<br>・作品の展示及び入選作品の表彰 |

| 事　業　費　（千円） | | R02 | R03 | R04 | R05 | R06 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | 予算額 | 1,060 | 1,013 | 1,003 | 1,004 | |
| | 決算額 | 950 | 919 | 942 | | |
| 年間の事業に要する時間（正職員/正職員以外） | | 410 / 350 | | | | |

## アウトプット

| 活　動　指　標　（単位） | | R02 | R03 | R04 | R05 | R06 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 出品点数210点以上 | 目標値 | 210 | 210 | 210 | 210 | 210 |
| | 実績値 | 251 | 216 | 229 | | |

## アウトカム

| Ｋ　Ｐ　Ｉ　（単位） | | R02 | R03 | R04 | R05 | R06 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 新規出品者数の割合10%以上 | 目標値 | 10 | 10 | 10 | 10 | 10 |
| | 実績値 | 16.29 | 12 | 14 | | |

## 実績

| | |
|---|---|
| 実　績 | ・出品点数<br>日本画14点、洋画94点、彫刻・彫塑・工芸28点、書24点、写真69点　合計229点<br>・出品者数　214人　うち初出品者数　30人 |
| 効　果 | この展覧会への出品を励みに制作活動をしている市民は多く、新型コロナウイルス感染症下にありながら、多くの方に出品いただくことができた。観覧者からも、楽しんだ、というだけでなく、コロナ禍での開催への激励などの声をいただいた。 |

## 評価分析

| | |
|---|---|
| 活動指標分析<br>※目標値の達成・未達成要因 | 活動目標に達する出品数を得られた。<br>早い時期から広報を開始し、出品者への周知と制作時間確保を十分に行うことができた。過去の出品者への個別案内や市報、ＨＰ、メールなどあらゆる広報媒体で周知を図った。 |
| ＫＰＩ分析<br>※目標値の達成・未達成要因 | 一定の新規出品者数を保つことができた。<br>早い時期から広報を開始し、出品者への周知と制作時間確保を十分に行うことができた。市報、ＨＰ、メールなどあらゆる広報媒体で周知を図った。 |
| 実績からR05年度の事業の方向性 | 引き続き開催していく。若い世代の出品数増加を促進していきたい。<br>市内高等学校に直接訪問し、主に美術部顧問に事業の趣旨を理解いただき、生徒の出品促進に協力をお願いする。過去に出品歴がある高校にも要項を配布するなど、地域の高等学校にも事業の周知を図る。 |